1998年7月25日発行

Ishi Datami

いしだたみ

長崎県亜熱帯植物園

１９９８年夏
Vol.12

長崎南高関西同窓会

NAGASAKI

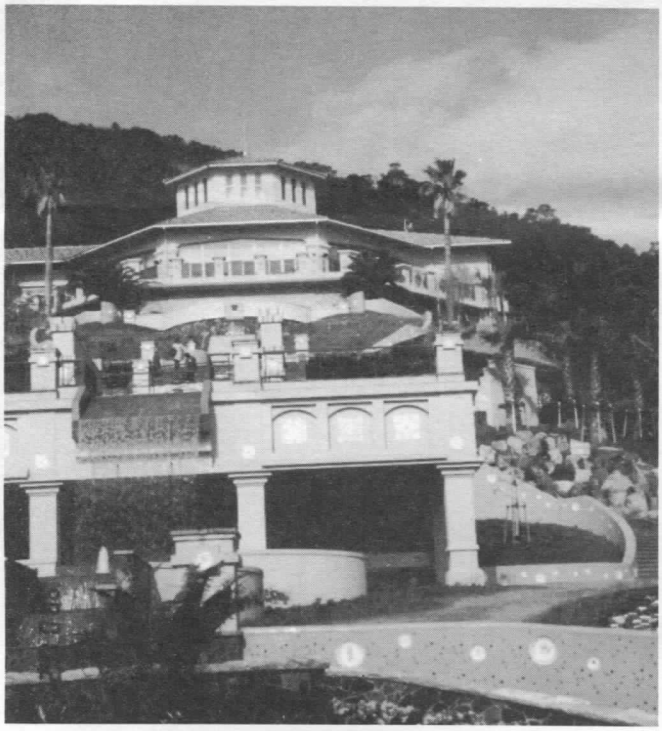
新歳時記

長崎県亜熱帯植物園

野母半島（正式には長崎半島）の先端にある脇岬という町を覚えておられますか。以前はひなびた漁村でしたが、いまやマリンスポーツのメッカになっていて、年中若者たちの姿が絶えません。近くの樺島との間に橋が架かり、島の灯台まで車で行けるようになって観光客が増えました。変わったのは海辺ばかりではなく、山手にある植物園も見違えるように新しくなりました。半島の最南端にあり、橘湾をはさんで島原半島や天草が望める絶景の地にあります。広々とした園内には年間を通じて２０００種にもおよぶ美しい花が咲き乱れ、珍しい亜熱帯植物も多く、トロピカル・フルーツも味わえます。リスザルやクジャクなどの小動物がいて、子供冒険広場もあり、家族連れで楽しめます。長崎の青い海と山の緑、たわわに咲き実る亜熱帯植物を充分に満喫できる所です。ビジターセンターは南欧風の建物で、青空に映えています。

長崎市から２５キロ、車で約４０分。帰省の折りにはご家族でぜひ訪れてみてください。

（２回生中野章子）



インデックス

NAGASAKI
新歳時記・・・・・・・・・・２
懐かしい手紙
広瀬方人先生・・・・・・・・３
クローズアップ仲間
中野秀子さん・・・・・４，５
リレーエッセイ
平野さちさん・・・・・・・・６
リレーエッセイ
金丸源治さん・・・・・・・・７
リレーエッセイ
室田育江さん・・・・・・・・８
関東同窓会・・・・・・・・・８，９
長崎同窓会本部会議
板垣金好さん・・・・・・１０
「５回生」同窓会
彦田恵美子さん・・・・・１１
インフォメーション・・・・・・　１２

懐かしいてがみ

ハルビンからこんにちは

広瀬方人

黒龍江省のハルビンに日本語教師として赴任してから４年になります。黒龍江一省に日本全土がすっぽりと入ってしまうのですから、中国はとてつもなく広い国です。ですから、私が４年間中国にいるといっても、中国のほんの片隅を知っているだけです。面白いことにハルビンの人たちは、北京よりも正しい標準語を話すと自慢しますから、言葉だけはまともな中国語を耳にしているのかもしれません。ただし、私の周囲は先生方も学生達も流暢な日本語を話しますので、私の中国語は市場に買い物に行ってやっと用が足せる程度のものです。

５月３０日は旧暦の５月５日で「端午の節句」でした。その昔、中国から伝わった様々の節会のなかで、この「端午の節句」は共通点がたくさん残っています。新旧の違いはありますが、まず名前が同じ「端午節」。そして、モチゴメで作ったチマキを食べます。大きな葉で三角に包んであります。南方ではその中に肉やナツメを入れるそうです。

今年は、２９日から学生達といっしょにハルビン郊外のダムへ一泊どまりでキャンプに出かけました。しゃれたリゾートがあるわけではないので、夜は学生の親戚の農家に一行１２人が分散して泊めてもらいました。翌朝、端午節の朝、午前４時起床、チマキとゆでたまごを食べました。これは長生きのための縁起ものだそうです。そして、朝露が乾かぬうちに山に登ってヨモギをとり、それで体を撫でると、一年間無病息災というのです。東北地方の夜明けは早くて、４時半出発したときには、もうすっかり明るくなっていました。山は稲佐岳ほどもなく、頂上につくと、朝露の光っているヨモギで学生達が私の体を払ってくれました。私も負けないで彼らに露を払い返しました。菖蒲があれば、長崎と同じように菖蒲とヨモギを束ねてやるということでした。下山して、ヨモギを各家の入り口に吊します。魔除けです。私が小学校のころ、家の軒に束ねた菖蒲とヨモギをさし、その夜は菖蒲湯に入ったのを思い出しました。

数年前までは松花江でペーロン競争も行われていましたが今はありません。ちなみに「ペーロン」は、舟のへさきに飾る白龍（パイロン）が訛って長崎弁になったのだと思います。何百年の間、民間に伝承されてきた習慣に従って、早朝から山に登り、中国の農村の手料理を食べ、三方を囲ませただけの野外のトイレで用をたし、学生達といっしょに薄いふとんにくるまって眠り、私は半分はもうハルビン人になりました。ハルビンは私の故郷です。

広瀬方人先生

昭和３７年から昭和５１年、
昭和５６年から昭和６１年まで
南高在職。
英語担当。
演劇部顧問。

クローズアップ

仲間 No.2

中野秀子さん

２回生
京都生まれの京都育ち
高校の３年間だけ長崎で暮らす。
都会の新風を
　　吹き込んだ　ラ・シ・イ
１５年前、ご主人と２人で
「留学生の家」を始める。

大きな車の運転席にちょこんと座り、彼女は阪急北千里の駅まで迎えに来てくださった。短い髪、Ｔシャツにジーンズ姿、小柄な少年のような彼女の第一印象は、テキパキした実務家だった。

「クローズアップ仲間No.１」に登場願った２回生中野章子さんの案内で、今回は２回生中野秀子さんが、ご主人と２人で、１５年間続けられている「箕面留学生の家」におじゃました。

同行してくれたのは、前出の中野章子さん、６回生藤原由美子さん。

１９８４年にオープンした「留学生の家」は大阪大学や大阪外国語大学のそば、静かな場所に建っている。

個室１２室（１つはご夫妻が泊まるための部屋）、皆がくつろぐための広いリビングルームがある。現在は女子６人と男子５人が生活している。

ちなみにその国籍は、ブラジル、ドイツ、ケニア、マレーシア、インドネシア、台湾、フイリピン、イギリス、韓国。

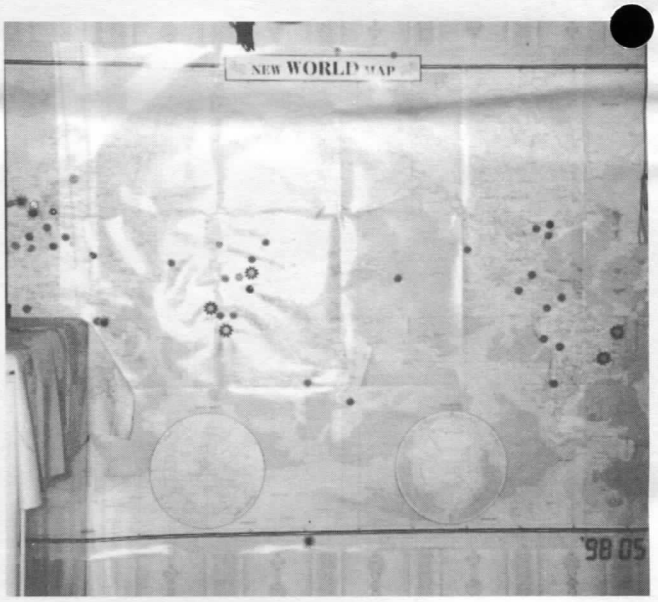
自炊できる台所があり、それぞれが後始末しているらしく、きちんと片付いている。

リビングルームの隅に世界地図が貼ってある。赤い花のピンは現在住んでいる子たちの国、グリーンのピンはここを卒業していった子たちの国。

約５０カ国、１２０人の子たちが巣立っていった。

３６歳で「留学生の家」を始めた時、彼女は会社員、ご主人は高校で英語を教えていらした。

２人とも英語が出来、自分たちに子供がなかったこともあり、住むところに困っている留学生のために、この家を作ったと、淡々とした口調で話される。



週日は高槻の家から仕事場へ通い、週末箕面の「留学生の家」に泊まり込む生活を続けてこられたが、７年目に、京都の実家のお母さんが倒れられ、仕事を辞められた。
何を犠牲にするか、厳しい選択だったと思う。
お母さんを見送るまで、高槻、箕面、京都の３カ所を走り回る忙しい日々が続いた。

「偉いと言ってくれる人もいるけど、私はたまたまやれる立場にいたからやっただけなのよ。自分の子供がいたらこんな事、絶対にしていないと思うね。
『留学生の家』に注ぎ込んだ金額を考えると、贅沢もできたかなと思うよ。
だけど、『物』は虚しいものね。
私はあの子等の世話をすることで、いろんなものを貰っていると思うよ。
若さも貰えるしね。だから偉いとかそんなことではないと、私は思ってる。」
いとも簡単に彼女はそう言う。
しかし、だれにでもできる事ではないと思う。
余計なことを考えず、誠実に取り組んできた彼女の前向きな姿勢が、目に浮かんだ。

伺ったのが日中だったので、在宅していたのは１人だけで、台湾出身の周典芳さんの話が聞けた。
彼女は大阪大学の大学院で人間科学を学ぶ１年生。
今、注目されている「ジエンダー」を専攻している。
少女漫画における男女の役割を研究している。
話の端々から学問中心の生活であることがよくわかる。大学とは別にドイツ語学校にも通っているという。
同じ家に、ドイツからの留学生もいるので、安易な気持ちで「教えてもらえるからいいね。」と言ったら、「彼女は私の先生ではないから、時間をとったら可哀想。」と答が返って来た。
彼女だけでなく、勉強に対する真摯な姿勢は共通しているらしい。

周さんは「ここにはいつも誰かがいるからさみしくない。」と言った。
そんな彼らのために中野さんご夫妻は四季折々、いろんな行事を企画する。最近もタケノコ堀りに行ってきた。小旅行もするが、旅費は個人負担、参加も自由。
「日本人はやってあげすぎる人が時々いるんですよ。だから、日本人金持ち、日本人親切、やらないと不親切ということになり、おかしくなるのです。」
玄関ホールには、５月の節句飾りが並べてあった。日本に残る子が３分の１、別の国に行く子が３分の１、国に帰る子が３分の１。世界のいろんな場所で、彼女のもとを巣立っていった子たちが、がんばっているのだと思うと、中野さんはスケールが大きな幸せ者だと思った。

設立以来、月３万円の家賃は変わらない。我が家の経済が許す限り、続けていくと、また例のあっさりした口調で、気負うことなく中野さんはそう言った。

（文責　５回生　池谷秀子）

周典芳さんと中野秀子さん

リレー エッセイ PART1

藤田先生の後ろに立っているのが平野さん

平野さち
5回生。
文学部史学科卒。
広告社勤務後結婚。
昭和48年、公文教育
研究会算数、数学、国語
英語教室開き、現在に至る。
一男、二女あり。
現在は夫、長男の三人家族。

「ねえ、見た？
あの太もも！すごいね！」
長野冬季オリンピックに盛り上がった二週間、毎日テレビにアップで映し出されるすばらしい太もも。

私の太ももも、あれほどではないにしても、立派なものだった。
背も低く、痩せ形の私にしては、かなりアンバランスな太ももであった。

私は中二の時、愛宕町に引っ越して来た。通学する学校は、向こうの山の山頂にある小島中学であった。中三で油屋町に引っ越したが、中学校は変わらなかった。

進学したのは南高。これも又、皆さん周知のように山の上にある。
有明海の近くで育った私の「カモシカ」とは言わないが、細かった太ももは、みるみるうちに、たくましく、立派になっていった。

バス通学だった方々は別として、あの石段に苦しめられた方は多いだろう。
いったい何段あったのかは、はっきりしないが、半端ではなかった。
特に、あの馬の石段には苦しめられた。
正覚寺から上がり始めると、すぐに石段になる。
右足から上がり始めると、ずっと右足が段を上がることになる。
左足から上がり始めると、ずっと左足が段を上がることになる。
下りも又、同じである。

中学二年から南高卒業するまで、いったい何段を上がり、そして下りたのだろう。
天文学的数値であったことを、私の太ももは証明していた。

何度も何度もテレビに映し出されるオリンピックを見ながら、こんなことを考えている私は、かなり「変」である。
卒業して三〇年、青春時代のジーパンを拒否した太ももも、年齢相応になりつつある。
そして、なつかしい思い出となるのであろう。

リレー エッセイ PART2

金丸　源治
７回生
海洋学部卒業後、海洋測量会社勤務を経て、現在東洋シャッター（株）勤務。
妻子各１名。
家庭生活、極めて円満!!

六月に入って早めの梅雨入りになりましたが、同窓生の皆様如何おすごしでしょうか。
このところの不景気で私の勤める建設関連業種も非常に厳しい状況ですが、皆様もそう楽なところはないと思います。
梅雨のうっとおしさに負けずにがんばりましょう。

関西に来て勤めだして２４年を過ぎましたが、やはりこちらの夏の暑さは一番ではないかと思います。
長崎も暑いことは暑いんですが、都会の暑さという意味では大阪に限ります。
今年の夏はどうでしょうか？
夏らしい夏であってほしいと思います。
天候不順だと景気もよくなりませんからね。

私事ですが、一昨年から眼鏡をかけるようになりました。
乱視が進んできて（決して遠視ではありません）、運転免許更新のときに引っかかるようになったからです。
年が年だけに仕方がないのでしょうが、不自由なことが多いですね。
寒い冬に帰宅した時や、熱い麺類を喰うときに眼鏡が曇るとか、汚れを拭く手間など、かけてない時がいかに楽だったかがわかりました。
特に不便な点が一つ出てきました。
それは、私の趣味の一つのバードウオッチングで双眼鏡を覗きにくくなったことです。
裸眼に比べて視野が狭くなって困っています。

梅雨に入りましたが、まだまだ鳥を楽しめる季節です。
「同好の志」の方、この季節は間に合いませんが、秋以降に鳥見行しませんか。

年中、鳥のことやら、カメラ、バイク、山歩き、ベランダ園芸、模型造り、等々、考えてばかりの私です。
こんなことではリストラの適齢期でもあり来年の我が身が心配になってきます。
次の同窓会総会では休職中なんてことのないよう気をつけたく思います。
皆様お元気で。

平成９年冬甲山森林公園
ルリビタキ　雄
背面が青く目立つので
警戒心が強く人前には
あまり出てきません。
一冬ねばって撮りました
そういう意味で
気に入った一枚です。

リレー エッセイ PART3

室田育江
29回生
医学部卒業(その間関西同窓会に在籍)
現在長崎大学付属病院耳鼻咽喉科勤務

「いしだたみ」の編集を引き受けて以来の大ピンチ。
室田さんが、大学病院そばの赤いポストに投函してくれた原稿とスナップ写真入りの郵便物が行方不明になってしまいました。
こちらの郵便局に正式な書類で問い合わせていますが、中間報告として、見つからないという電話がありました。
第７回総会に元気な姿を見せてくれた室田さん。
その後国家試験に通り、長大付属病院勤務になったと聞き、「新米女医さん奮闘記」を書いていただこうと、忙しいことは承知の上で、原稿依頼をしたのでした。
たまたまワープロでなく手書きだったので
下書きがなく、また大変忙しいので、新たに書く時間が作れないとのこと。
よくわかります。
この件で「学習」したのは、大切な原稿などの郵便物は、記録が残る「配達記録郵便」か「簡易書留」でお願いすべきだったということです。
室田さん、ご迷惑かけてしまいました。
仕事、どうぞ、がんばって！！！

関東同窓会第８回総会訪問記

５月２３日（土）１６時から１８時
東京都庁　議会棟１階
「カフエテリアプチモンド」
実行委員　５回生
１５回生
２５回生

関西同窓会より、２回生片江、４回生佐藤、５回生池谷、６回生藤原の４名が出席した。
今回の実行委員の提案は、「カジュアル同窓会」。
お祭りのような雰囲気の会場でワイワイガヤガヤと２時間。ほとんどの出席者が２次会会場へとむかい、私などはゲストなのに３次会にも出席してしまった。
恩師は、藤田光先生、井元保一先生、山田康弘先生、原宮之先生。
１６０名の出席者は、正直うらやましかった。

同窓会にも
ビッグバン的改革を！！！

関東同窓会第8会総会
実行委員
5回生　中村あやみ

去る５月２３日土曜日に関東地区の第８回総会が開催され、関西からも、２回生の片江、４回生の佐藤、５回生の池谷、６回生の藤原の４氏が参加してくださいました。

５．１５．２５回生を開催回生としたこの総会は「カジュアル同窓会」と銘打って、開催側はＴシャツにジーンズ、普段着でも参加できる手作り同窓会を目指しました。

Ｔシャツ制作製作から、会場の飾り付け、バザールでの物品販売など、初めての試みです。

１４６名の同窓生に、原新校長、数学の井元、地学の藤田、国語の山田の各先生方と他校代表が加わって総勢１６０名程度の人々でごったがえした会場は、クラシックの弦楽四重奏の生演奏をバックとしただけの、ほとんど何のアトラクションもないシンプルなものでしたが、その分会話を十二分に楽しむ時間をとりました。

会話の合間に食事をつついたり、バザールで

の格安品や協賛の長崎物産のお店を覗いて買い物を楽しんだりと、それぞれが勝手に楽しめた同窓会であったと思います。

ホテルでの着飾った静かな会話、長い挨拶、お決まりのゲーム以外に、せっかく若い学校なのだから、何か別の同窓会の形はないものかと、５回生の有志で、喧喧諤諤やったのが１年近く前の夏の日でした。

松浦さんと中村あやみさん

そうして実験的に行ったのがこの会だったのですが、果たして参加者の気持ちはいかがなものだったのかアンケートをとればよかったかなーと思っています。

さて、続いての２次会には、９０名近くが参加、１次会に輪をかけたもっとすごい盛り上がりで、果てしないおしゃべりタイムは追い出されるまで続きました。

ビッグバンは同窓会にも必要ではないでしょうか？

若い人の気持ちをも巻き込めるような（今回３０回生以下は年会費以外全て無料にしました）

「なーんか楽しかったなー」って思って帰れるような同窓会を何とか実現したいものです。

関西も頑張ってください。

長崎同窓会本部会議

４回生　板垣　金好

９８年５月３０日（土）午後５時より長崎グランドホテルに於いて、関東、関西、福岡地区の代表が参加して、総勢１２名による本部会議が開催され、松本会長（関西）の代理として出席した。
各地区との合同会議は初めての試みだけに、本部役員の情報交換に対する熱意が十分に感じられた。

自己紹介からスタートし、各地区同窓会の実態、活動報告等が順次発表されたが、話題の中心は、各地区総会の運営方法、動員、収支であり、共通の問題と悩みを持っていることが再確認された。

その後、本部の決算報告書についての質疑応答が行われたが、その中で注目されたのは、「維持会費」である。
この費目は全国会員の名簿調査及び修正費、会報発行費に充当するため徴収されるもので、性格上全会員が負担すべきである点で認識は一致した。
とは言え、関西においても「維持会費」の存在が浸透しておらず、今後会報誌等でＰＲする必要があると思う。
情報交換にも熱を帯び始め、当初１時間の予定が２時間以上にもなり、場所を五島町にある元倉庫を改装した地ビール店に移し、交歓会となった次第。

本部としては、今回の会議が有意義であったことを評価し、継続して定期的に開催する模様。
私自身も得意の（？）長崎弁で言いたいことを言えたし、楽しい時間を過ごせた。

翌日３１日（日）は、２回生のゴルフコンペである「よんまる会」に参加させていただいた。
早朝７時３０分スタートというのに、なんと４組である。
さすがに鉄の団結を思わせる２回生であったが、ゴルフが終わると「あの野郎、プレイが遅か」とか、「マナーが悪か」等々、どこの回生にも見られそうな光景があり、ちょっと微笑ましく思えた。

本部総会のお知らせ

平成１０年度長崎南高同窓会総会
日時：平成１０年８月１２日（水）
１８：３０から
場所：ニューナガサキホテル

「5回生」同窓会

吉田さん(左)と彦田さん(右)

昨年の総会の時、５回生だけで、集まりたいねということになり、その場で強引に幹事を楠さんにお願いし、２月２２日（日)、『かに道楽』での集まりが決まりました。
当日の出席者１６名、５回生は他の回生と比べると、何かと集まりがいい方で、これまでにもメキシコ料理、鶏鍋、インド料理と会食を重ねているので常連組も多く、あいさつも「やあ」「こんにちわ」から。
久しぶりに会う人とは「元気だった？」。
そして中には「誰だっけ？」という新人さんもいて、会を開く度に新しい顔ぶれがいるのではと、楽しみにでかけています。

学生の時は全く顔も知らなかった人、顔は知っててもなかなか話すチャンスがなかったのか、意識して話せなかったのか、いろいろでしょうが、そんな人達とも不思議に南高生ということで自然に会話がはずむのは、おじさん、おばさんになったせいもあるのでしょうか。

みんなに会う度に懐かしさばかりでなく、少しずつ気心が知れ、妙に仲間意識が芽生えて、これは５回生の１４組（５回生は１３組まであったので）なのでは・・・・と思うのは私だけなのでしょうか。

かに料理は無口になるのではと心配していましたが、食べるのもしっかり食べて、ワイワイ、ガヤガヤ・・・あっという間の２時間が過ぎ、その後、梅田ハイキングをして２次会へ。
遠くは四日市や岡山から来てくれた人たち、会の後、仕事先へと新幹線に乗る人、夕食の準備が待っている人・・・時間にして５時間足らずの語らいは、『気分転換』と『懐かしさ』そしてみんなのエネルギーを少しずつもらって、おまけに長崎の古屋さん（５回生）からの差し入れのかまぼこ付で『長崎の香りと味』をお土産にそれぞれ家路につきました。

（５回生彦田恵美子）

インフォメーション

●長崎南高関西同窓会総会ご案内

第８回総会を下記のとおり開催します。
皆様のご参加をお待ちしています。

とき：１９９８年９月１２日（土）
　　午後４時より２時間
　　受付は３時４０分より

ところ：大阪キャッスルホテル
　　６階鳳凰の間
　　大阪市中央区天満橋京町１－１
　　地下鉄谷町線「天満橋駅」上
　　京阪電車「天満橋駅」
　　℡０６－９４２－２４０１

かいひ：男性　８０００円
　　女性　６０００円
　　学生　３０００円
　尚、同窓会年会費未納の方は
　当日別途いただきます。（２０００円）

招待恩師
　広瀬方人先生（英語）
　　昭和３７年から５１年
　　昭和５６年から６１年在勤
　高橋政寛先生（英語）
　　昭和６３年から平成６年
　　テニス部顧問　本校４回生

２次会：同ホテル内にて別途場所を予約済
　　会費３０００円程度（参加自由）

発行人　長崎南高関西同窓会
　　会長　松本　藤一
編集人　池谷　秀子
〒５３０－００４７
大阪北区西天満３－６－３
西天満福岡ビル４階
松本法律事務所内
℡０６－３６５－６４４５
　０６－３６５－７０８１

●皆さんのご意見募ります

回生ごとの行事案内、行事報告など
インフオメーションに載せますので
連絡ください。
インタビュー記事で取り上げて
欲しい人、事
教えてください。

●バードウオッチング

金丸 源治さんのエッセイに登場した
バードウオッチング。
初心者用のプランを企画してもらいたいと
考えています。
興味のある方、連絡ください。

編集後記

会報誌の取材で、関東に行って来た。
なあんて言うとかっこよすぎる。
会いたい人が何人かいて、ワクワクしな
がら行ってきた。
同窓会は「出会い」の場所だと思う。
「また会いたいね」
約束しても、しなくても、
元気で笑ってる友達の顔を思い出すと
私は自分まで元気になれる。

池谷　秀子